

## 実践② 鹿屋市立大始良中学校

### 1 はじめに

本校区は、平成27年3月に大始良小学校に統合された旧浜田小学校区を含む3小学校区（大始良小、西俣小、南小）からなる。古くから肝属南部と大隅をつなぐ交通の要所として、「大阿枚」として歴史に登場する。

大始良夏祭りやホテル祭り、文化講演会等、旧大始良村の歴史と文化を受け継いだ独自の行事も多く、地域で子供を見守り育む風土が残っている。



[読書グループの読み聞かせ会]

### 2 基本データ

- (1) 生徒数202人，7学級，教職員数19人
- (2) 蔵書数9,100冊，学校司書：非常勤（月・木）
- (3) 読書活動に関する目標

- ア 読書によって情操を豊かにするとともに、望ましい人間性の資質を養う。
- イ 学校図書館を積極的に利用する習慣を養う。
- ウ 各教科授業等を通して学校図書館の利用を推進する。

- (4) 鹿屋市立図書館研究連携校（平成21年度～平成25年度）

### 3 活動の実際

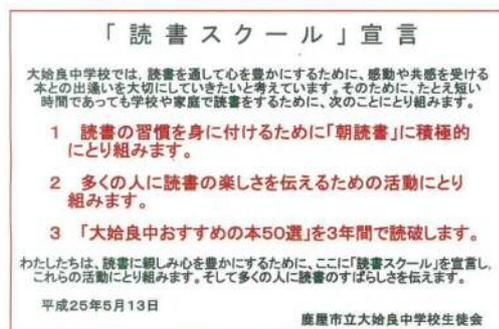
- (1) 朝読書（8時10分～8時25分，毎週月・水・木・金）

朝読書を読書活動推進の核として位置付け、落ち着いた雰囲気の中で正味15分間、読書に専念する時間としている。

- (2) 読書スクール宣言

平成25年度に鹿屋市立図書館長をお招きし、「読書スクール」を宣言した。

現在は毎年5月の生徒総会で、学習図書部が「読書スクール宣言」の経緯について説明し、宣言を全校で確認して引き継いできている。



[読書スクール宣言]

- (3) 大始良中おすすめの本50選

平成25年度に生徒に人気があるミステリーやファンタジー小説、ドラマの原作となった本、国語の教科書等に紹介してある本、最近出版された話題の本の中から「大始良中おすすめの本50選」を設定した。生徒が手に取りやすい場所に「おすすめの本50選コーナー」として特設したり、各教室の学級文庫の中にも可能な限り入れたりして啓発してきている。

- (4) P T A 読書活動推進部の取組

これまでP T A 会員有志が「読書活動推進委員会」として、読み聞かせや文化祭でのブックトークを実施していた。平成29年度からは生徒がより一層読書に親しむ機会をもつことができるように、「読書活動推進委員会」をP T A の専門部に格上げし、「P T A 読書活動推進部」として組織的に取り組むことにした。専門部に昇格したことで、これまで読み手の関係で1学年1学級しか実施できなかったものが、全

学級で一斉に実施できるようになったり、保護者として生徒に読んでほしい本の展示をしたりして、更に読書活動を啓発することができるようになった。



[読み聞かせ]



[生徒に読んで欲しい本の展示]

#### (5) 読書の楽しさを伝える活動

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| ア 生徒有志による「読み聞かせ」 | イ ポップ作り教室          |
| ウ 図書紹介カードの掲示     | エ 読書グループによる「読み聞かせ」 |

#### (6) 鹿屋市立図書館との連携

本校の読書活動を推進するに当たっては、鹿屋市立図書館から読書活動の様々な情報提供や読み聞かせグループの紹介、派遣司書による設営や指導、ブックトークの実演、読み聞かせ講座、ポップ作り等、様々なサポートをいただいている。学校の読書活動を活性化するためには、学校だけでは、人的、物理的、時間的に限界があることから、これからは、いろいろな取組事例やアイデア、ノウハウをもっている、公立図書館や読書活動団体と連携して取り組んでいくことが必要である。

## 4 成果と課題

### 【成果】

- ・ 生徒が主体的に本を選ぶ環境作りが進み、読書に親しむ生徒が増えてきた。
- ・ しおりプレゼントやプラスワンチケット、読書ボランティアによる読み聞かせ、ポップアートづくりなど、生徒主体の多様な活動が定着してきた。

### 【課題】

- ・ 貸出冊数は、伸びてきているが、年間で一人平均20冊を達成できるよう、継続的な支援を行いたい。
- ・ 各教科での活用という視点から図書館の在り方を見直す必要がある。

## 5 おわりに

生徒の読書活動の実態を把握するものさしの一つに、学校図書の貸出冊数がある。本校の貸出冊数は、年々確実に伸びてきているが、数値的に際立つものではない。部活動や習い事、毎日の宿題等、今の中学生は忙しい。読書の時間は学校でしかとれないという生徒も多い。貸出冊数はひとつのデータとして参考にしていくが、それよりも読書の楽しさを伝えることや朝読書で本に触れる時間を確保すること、読みたい時に本を手にとれる環境を整備しておくことに重点を置きたい。そのために、多様な読書活動の工夫継続、本校の特色の一つであるPTA読書活動推進部の活動の推進、市立図書館と連携した情報収集や優れた事例の自校化に努め、生徒が行きたいと思う魅力ある図書館にしていきたい。